

第2回

湯崎知事と本音で語る 「欲張りライフ懇談会」 (福山市)

と き 平成29年2月4日(土)

ところ 広島県民文化センターふくやま

	目	次	頁
1.	知事挨拶	1
2.	衣笠祥雄さんの「欲張りライフ」とは?	1
3.	あなたの周りの「よくばりさん」の「欲張り自慢」		
	欲張り自慢①	15
	欲張り自慢②	18
4.	欲張りトーク	21

広 島 県

1. 知事挨拶

●湯崎知事

会場みなさん、こんにちは。広島県知事の湯崎英彦です。みなさんご自分のお仕事、あるいは暮らしの中で、さまざまなご希望があると思います。広島県ではお一人おひとりのご希望の実現を応援して、広島でならかなえられる、広島でかなえようと、感じていただきたいと考えています。

今日はこの後、日頃から欲張りなライフスタイルを実践されている方を代表して、みなさまお馴染みの元広島東洋カープの選手で、現在は野球解説者としてご活躍されている衣笠祥雄さんに講演をしていただきます。また、備後地域で「欲張りライフ」を送っている「よくばりさん」から、「欲張り自慢」をしていただく予定になっております。

仕事も暮らしも両方追求しようというメッセージをみなさんにお伝えすることによって、あれもこれも欲張っていいんだという意識、気持ちを持っていただければと思っています。2時間という少し長い時間になりますが最後までじっくりお付き合いいただきますよう、よろしく願いいたします。

○司 会

講演会に入ります前に本日のプログラムをご紹介します。これから14時25分までは、野球解説者の衣笠祥雄さんに、衣笠さんの「欲張りライフとは？」という内容でご講演いただき、続けて湯崎知事と「欲張りライフ」についてのセッションを行います。その後、15分間の休憩をはさみまして、あなたの周りの「よくばりさん」の「欲張り自慢」と題し、仕事も暮らしも欲張っているお二人の方にご登場いただき、ご自身の「欲張りライフ」についてご紹介いただきます。最後に出演者全員で「欲張りなライフスタイル」についてディスカッションする、「欲張りトーク」で終了となります。

また、本日の進行を手話通訳、要約筆記でもお伝えしています。手話通訳は福山手話サークル「芦の会」と、手話サークル「ゆびこみ」、要約筆記は福山の要約筆記サークル「さんりん車」のみなさまにお願いしています。どうぞよろしくお願いいたします。

それではこれより衣笠祥雄さんにご講演いただきます。衣笠さんは野球人としての顔だけでなく、ジャズ鑑賞、水彩画など、いくつもの趣味を持つ本物の「よくばりさん」です。ではお待たせいたしました、衣笠祥雄さんのご登場です。みなさま、大きな拍手でお迎えください。

2. 衣笠祥雄さんの「欲張りライフとは？」

○衣 笠

みなさん、こんにちは。今、紹介いただいたんですが、欲張りって言われても、僕は欲張りじゃないと思うんです。なぜかと言うと、僕は野球しかしていませんから。中学校で

野球に出会って、それからずっと野球以外はほとんど一生懸命やったものはないんじゃないかと感じています。ただ野球選手はシーズンオフに時間が生まれます。そういう時間に、確かに他のことをちょっとトライしてみたいなというのはあったかもしれません。

僕は18歳でカーブにお世話になって、合宿所に7年いました。合宿所には先輩がいっぱいいて、その中にはギターのうまい先輩もいました。ちょうどあの当時、外国に人気のギタリストがいて、非常にギターが流行っていました。僕は音楽がとても好きで、特にジャズが好きです。ジャズがなぜ好きかといいますと、入団して3年間は苦しい思いばかりしていました。今はジャズにも明るい曲がいっぱいあることを知っていますが、当時は重苦しい、何かドーンと心に乗っかるような曲が多かったように思います。だから入団して3年間は、ジャズが自分の置かれている状況と同じように重たい雰囲気、うまくいかない自分を励ましてくれるんじゃないかと思い、ジャズを聴いていました。

僕は決して器用な人間ではありません。先ほど言いましたように、野球しか知らない人間です。なぜ野球しか知らないかという、野球しかできないから他のことを知らないんです。でも音楽は楽しそうだし、楽器ができるのはもっと面白いだろうと思いました。だからその先輩のギターを見ながら、「よし、僕もやってみよう！」と一大決心をしました。当然、シーズンオフです。あの当時は本当に1軍半、というより2軍の選手でしたから、毎日、楽しいことは少なかったです。その中で何か楽しいものを見つけようと思ってギターをはじめました。一生懸命に頑張りました。けどいくらやってもうまくならない。物事をやり出してから諦める時、もしくはやめる時は必ず先に言い訳を考えます。あの時に考えた言い訳は、ギターの弦と弦は間の広さが決まっています。僕の指はそんなに細くありません。なぜなら中学校からずっと野球をやっていて、特にキャッチャーをやっていたので、突き指をいっぱいしました。突き指をする度に関節が太くなります。この太い指が邪魔するんだ。指が弦の間にうまく入らない。仕方ないからやめよう。という言い訳でギターはすぐにやめました。やめる時、撤退するのは非常に早いです。

その次に、それからまたしばらくして、こりずにまたやったのはトランペットです。サッチモという素晴らしいジャズの人が出て、そのトランペットに魅せられました。やりたかったらすぐ楽器屋さんに行く人間で、すぐにトランペットを買いました。こんなものは誰でも吹けばすぐに音が出ると思っていたら、これがなかなか出ない。けどなんとか吹きたいという一念で一生懸命やりました。なかなか出なかった音が少しずつ出てきた時に、ひとつだけ目標が出来ました。あっそうか、ギターには目標がなかったからダメだったんだと思いました。今度のトランペットは目標を作りました。何を目標にしたかというと、「荒城の月」を吹くことです。「荒城の月」を吹くために本を買ってきて、一生懸命、毎日毎日、先輩に怒られながらやりました。やっと「荒城の月」が吹けたのですが、吹けるようになると疲れちゃいました。それまで一生懸命にやった分だけ疲れがいつぱんにきて、もうこれでいいだろうと思いました。目標は達成したんだから、これでいいとトランペットも終わっちゃいました。考えてみると、結局これも挫折したんでしょうね。それからは音楽はもう聴くだけにしようと思いました。

僕は25歳で結婚して、26歳で娘が生まれました。男の子ならよかったんですが娘だったので家内がピアノを習わせたいと言い出しました。それが運の尽きでした。家の中へピアノが入って来ると昔の虫がちょろちょろと出て、やってみたいと思いました。知らないから、やったことがないから、やってみたいと思うようになり、ちょっと触ってみると、今度はトランペットよりははるかに楽なんです。押さえれば全部音が出る。よし、これならば何とかかなと思って、先生に娘が教わっているのをジーッと横から見て、先生が帰った後に今日娘が教わったのと同じようにやってみました。ピアノにもやっぱり、やりたいというひとつのきっかけがありました。野球の選手でピアノができる人はなかなかいません。身近なところでピアノができる人はジャイアンツの王さんでした。よく考えてみますと、王さんには3人の娘さんがいる。恐らくそういう影響があったんでしょう。あの王さんが何かの時にピアノを弾かれるのを見て、かっこいいと思いました。粗野な人間のように見える野球選手がピアノを弾ける。何かこれってかっこいいんじゃないかと思い、ピアノをやり出しました。バイエルの1番から5番あたりまでは全部右手一本でできました。はっきり言って、娘よりはうまかったです。6番、7番、8番も何とかついて行きました。ところが、この時はそんな短い期間ではすまないもんですから、シーズンに入ってしまった。野球選手はホームゲームで1週間は家にいて、後の一週間は遠征に出ます。遠征に出ている間も娘はピアノを習っている。遠征から帰って来て、今日は何を習ったかなと思って復習している娘をジーッと見ると、今までは右手ひとつだったのが左手も使っていた。一瞬見た時に、えっ左手も、と思いました。初めてだなと思いながらジーッと見ていて、まあ何とか出来るんじゃないかとやり出しました。左手を動かしたら、右と左が同じようにしか動かないんです。これでピアノも諦めました。まさか娘よりへたな父親というのは、娘も嫌でしょうから。僕も負ける訳にはいかないと考えているんで嫌です。これで大体音楽は、楽器はやめました。

僕は決して器用な人間じゃありません。野球だけは相性がよくて、これはもう一生懸命やればやるほど面白い。僕はよく言うんです。世の中には色々なことをしている人がいっぱいいる。顔が違うように、性格が違うように、声が違うように、それぞれみなさんは好きなものが違う。なぜかという、持って生まれた才能が違うからです。そうすると、それをどうやって自分で見つけるか。それと出会うきっかけを自分が作るか。出会った時にそれを大事にするかという時にいつも言うんです。自分が好きにならなければ、相手も好きになってくれませんよと。例えば、ギターをもっと僕は好きになればよかった。トランペットを僕はもっと好きになって、毎日磨きながら、お前はいい子だ。お前は言うことを聞いてくれる、とおだてればよかった。ピアノだってそうです。一生懸命にもう少し頑張るとけば、何とかあったかも分からない。けれど途中まで行ったらポンと冷たく突き放した。だからこの3つはまったくダメでした。そういう意味からしますと、僕は野球は離れませんでした。中学校で出会ったんです。出会った時に何をまず最初に見つけたかという、面白いものを見つけているんです。力一杯バットを振って、ボールとバットが当たったら、ボールはどこまで飛ぶだろうか。不思議なことに、これはずーっと変わりません。

僕は中学校で野球を始めて 29 年間プレイヤーとしてやらしてもらいました。29 年間ずーっとこれがついて来るんです。これが面白いから一生懸命できたんです。

僕が試合に出してもらえるようになったのは入団して 4 年目の昭和 43 年です。この時から、試合の中でよく三振するバッターでした。クルクル、クルクルとよく空振りをするのでファンの人に、「暑い夏はいいけど、春先と秋はやめてくれ。周りの人間が風邪引いちゃあ困るから」と言われました。それでも僕はとにかく力一杯に振らないと気がすまない。なぜかという、一番最初に面白いと思ったのがこれだからです。だから当たったらどこまで飛ぶか、力一杯バットを振る。考えてみると最後の最後まで、僕はこのひとつの夢を追いかけました。

僕にとっての野球は、一段階段を登れば、次の一段が出てくる。また一段登れば、次の一段が出てくる。終わりが無いんです。最終的には自分の思うようにいかなかったから引退はしましたが、まだ今も野球のそばにいます。僕は野球を見ている時が一番楽しいです。面白いです。あまり見すぎますと、ストレスがたまります。何であの選手は、ああいう風にしないんだろう。何でこうしないんだろう。そういうストレスはたまりますが、野球のそばにいるのが僕は非常に楽しい。なぜなら、僕は野球が好きだからです。だから野球も僕を好きになってくれているんじゃないかなと思います。楽器はなかなか自分が好きにならなかった。今は大きな反省をしています。ただしこれはみんな若い時です。もう少し自分の野球のキャリアができて、シーズンオフの時間の使い方も余裕があれば違っていたかも知れません。

その後、少し余裕ができるようになりましたが、特に何もせずに家にいることが多く、何か楽しいこと、自分が楽しめることはないだろうかと考えていました。するとたまたま友だちに絵描きの先生がいて、この先生にある日こう言われたんです。「衣笠、お前ゴルフばかり行かないで、たまには家にいて体を休めながら絵でも描いたらどうだ」。でも絵は、はっきりいって学生時代からいい点数を先生がくれなかったもので、あんまり好きになれなかった。学校の授業でいい点数をくれれば、僕だって好きになっていたと思います。けどあまりいい点数をくれなかったんです。だからあれは先生が悪い。僕が悪い訳じゃない。僕はいい点数をくれたら一生懸命やります。ところがあんまりいい点数をくれなかったから、あんまり絵は好きじゃなかったんです。

その友だちは油絵の道具を一式、ポーンと気前よくくれまして、「これでお前、家にいる時間に絵でも描けよ」って言いました。ああ、そうかと思ってキャンバスを買って来て、絵の具を塗るということだけを楽しみにやったんです。うまく絵を描くということになると、これはまたストレスがたまりますから、絵の具を塗る。絵の具を重ねる。絵の具を合わせる。するとどんな色が出るんだろう。どんな風な色合いに見えるんだろう。これを楽しみながらやろうじゃないかと考えたんです。絵を描くんじゃなくて、絵の具を混ぜる。これは実に面白かった。普通はキャンバスに絵を描こうとすると、みなさんは形や光や色々と高いレベルのことを考える。しかし僕はそうじゃなくて、自分の好きな色を作ってみようと思いました。これはあんまりストレスがないんです。別に形にこだわっていないです

から。今回はこんな色になった。これとこれを合わせたらこういう色になると書いてあるけど、こんな色が出るじゃない。あっ、こんな面白い色が作れた。これなら誰でも出来るんです。これが実に面白くて、家にいる時の楽しみが増えました。シーズンオフに毎日毎日外に出ると、ちょっと横から怖い人が文句を言います。だから家にいてテレビを見る。しかし何となく退屈でした。そんな時に自分の中でこんな楽しい、面白いことが生まれた。これはある程度長いこと続きました。なぜなら、さっき言いましたように、形に描こうとしないからです。要するに違う楽しみ方を見つけたんです。しかし普通の絵とは違います。だから人には一切見せません。屋根裏にずーっと入っています。永遠に出てこないでしょう。形になっていませんから。ただ僕にとっては、色が非常に面白い。楽しい。やっている時間が楽しければいいんです。なぜなら心が豊かになれます。まあ油絵そのものは、ちょっとオススメしてもいいんじゃないかなというほど、僕は気に入っています。

もうひとつ、これもたまたまいい先生に出会いました。備前焼の世界に藤原雄という素晴らしい先生がいらっしゃいます。何かの拍子に偶然お会いさせていただきまして、「衣笠君、今度一度うちに来て、土でもひねりなさい」と言われたんです。「土をひねる」って、これはまた難しいんだろうなと思いました。でもせっかく素晴らしい人間国宝の先生ですから、どんなお宅にお住まいなのか、どんな仕事場を持っていらっしゃるのか、むしろそっちの方に興味がどんどんわいてしまって、岡山のご自宅へお邪魔させていただきました。そうしたら先生が、「よく来た、よく来た。ちょっと土のところへ行ってひねろう」と言われます。「ひねろう」と言われても、僕はひねり方を知りません。まあ菊ねりだ、うんぬんだと色々あるんですが、そんな難しいことは知らない。そうしたら、ちゃんと土が用意してあり、ロクロの上にぼんと乗せられました。そこで横を見ていると、先生がすーと手をふれると、すっと形になる。なんだ簡単なものかと思って、ぱっと手を置いたら、ロクロが回っているもんですから、フニャフニャフニャとなる。いやーまいったなと思って、一回つぶれた土でまたやり直そうとしたら、その土はもうだめなんだと言われました。わー、えらいことになったなと思いながら、今度は恐る恐るやり出した。すると先生に何を言われたかという、「いやー衣笠っていうのはあんなにバットを豪快に振るから、土をさわらしたらもっと大胆にやるかと思ったらダメだね」。この一言で陶芸は終わりました。大体、けなされるとすぐ終わるんです。結局そこでもう怖くなっちゃう。なぜかという、5年も10年も寝てる土を目の前に置いて、水を手につけて、ふっとさわってフニャとダメになったら、この土はもう使えないんです。また水の中に入れて、溶かして、また干して、それから使わないといけない。僕にしたらその土に負けている訳です。だから結局は陶芸も出来ませんでした。

でも考えてみるとこうして色んなことをやらしてもらいました。衣笠は色々やるんだね、と思われるかも知れません。他にももうひとつやったことがあります。1級船舶です。船の免許を取るのに随分頑張りました。1級の船舶免許をなぜ取りたかったかという、海の上の静けさ、これに憧れたんです。毎日ごちゃごちゃした中で暮らしている。海に出ると静かなんです。今はもうだめでしょうね。衛星電話があったり、大きな船に乗ると静けさ

を邪魔する色んなものがある。だけど当時、あんまり大きな船でなかったら、海に出ると連絡がつかない。波の上は静かなもんです。そういう意味で、いいねーと思って憧れて船舶の免許を取りました。これは成功しました。

こういう風にして僕は空いた時間に随分色んなことをやってきました。でも、僕が一生懸命やったのは、野球以外にありません。野球が好きなんです。野球が面白いんです。だから面白いものをいかに自分の中で見つけるか。僕はよく言うんですが、今、あなたが一番多くの時間をさいてしていることをまず好きになってくださいと。そして、自分自身を好きになってくださいと。やっている自分を好きになる。そうしますと、暇はくれません。次から次にやることを見せてくれます。

例えば今はもう僕は野球はできません。年齢的なものでスピードが体がない。だからプレイヤーとしてはできない。でも野球は見る。昨年のカープです。1年間ジーっと見る。終わってみれば25年ぶりに優勝しました。素晴らしい結果を残した。じゃあどうやって勝ったんだろうな。ひとつひとつ考えていくと、これがまた楽しいんです。キャンプの時に緒方監督が2年目だった。1年目の緒方監督にこういう話をし、2年目の今年、何をしゃべったかなと思出す。緒方監督は選手として、そして引退後もずっとカープに在籍していました。作戦コーチとしても監督の横で野球を見ていた訳ですから広島というチームを一番知っているかも分かりません。その彼が今度はチームを率いなければならない。一番難しいのは何かと言うと、今までいたポジションから見ていた監督を切り離さなければいけないんだけど、なかなか離れない。だから1年目は難しかったと思います。「思い切ってやらなきゃ、自分の色を出さなきゃ」と言ったんですけど、結局シーズンに入ったら、自分が今まで支えていた、ジーっと見ていた監督の野球がベースになって1年が終わっちゃった。だから去年は、こういう風に言ったんです。「去年1年でいい勉強が出来たでしょう。今年も昨年までの野球じゃなく、緒方という監督の野球をやってごらん。好きなようにやればいいんだ。監督なんだから、自分が正しいと思う方向に今年は舵を切って、優勝しないと選手は喜んでくれないよ」と。そういうことなんです。セリーグに6球団あって、優勝したチームだけが喜べるんです。監督もコーチも選手も。これは経験の上で知っています。だから、選手もコーチも喜ばすためには、まず緒方という監督が優勝を出来るということを確認して、自分の野球をやらないとダメだよと話をしたのが去年のキャンプです。

オープン戦を見ていますと、えっ、新しいことしたね。は一、こういうことがしたかったんだと気がついた。田中というショート、彼はまだ2年目です。彼を1番に入れてました。あっ、これ面白いね。そうかこういう手があったんだと。広島は、菊池と丸を1番、2番で入れ替えながら使っていた。どうしてもそういう風にしか見えなかったし、見てこなかった。ところがこの前にもう一人をもって来るという手はあったんです。すると1番から3番まで3人もとも足がまず速い。ちょっと高め甘いボールが来たら3人もともホームランを打てる。それでいて左、右、左です。こういう並びがあったんだと思った。今年はやるじゃん、と思ってオープン戦を見ていました。

公式戦に入って、どこまで頑張るかなと思って楽しみにしていました。巨人の選手が年

齡的に上がって来たのと、故障者が多かったので、なかなか調子が出なくて成績も今一でした。交流戦前、セリーグはどこが1番になるのかなという状況がずっと続いていました。ところがちょうどこの5月の24, 25, 26日に巨人と3連戦があつて3連勝したんです。確か第1戦目が6-0でジョンソンがシャットアウト。25日は田中と鈴木の2人が3ランホームランを打って9-3で勝っている。3戦目は九里という、あんまり先発で勝ったことのない投手で勝利。3連勝して、ちょっと前に出かかった。これで頭ひとつ出たかなと思ひながら、交流戦に入つて行きました。

毎年、交流戦はあんまり得意じゃないものですから、ちょっと心配していました。がまんでできるかなと。そしたら交流戦途中まではそんなに周りとの差はなかったんです。ところが日程を見た時に、今年は恵まれているなと思った。なぜならパリーグの調子の悪いチームが最後の2つのカードにはまっているんです。西武とオリックス。この2つのチームはパリーグでどうも去年は調子が出なかった。特に前半戦は本当に気の毒なほど悪かった。このチームが最後の2つのカードです。それも地元です。カープは地元でやるとやたら強い。特に7回から後、何か仕掛けがあるんじゃないかというくらい逆転するんです。相手チームは恐らくやるのがイヤだったでしょう。そういう中で西武戦、いいカタチで勝ちました。ここから確か西武で2勝して、オリックスで3勝して5連勝。交流戦の後はその勢いのまま11連勝する。この中でうれしいことがありました。何かというと、最後のオリックスの試合で、オリックスの抑えの平野という素晴らしいピッチャーが、いい選手を育ててくれました。鈴木です。3日間続けてホームランを打たしてくれた。これで一気に鈴木選手が育ちました。野球の選手なんてのは打てば自信になる訳です。1番いい場面でサヨナラホームランが2日。3日目は決勝のホームラン。これで11連勝をする勢いがついた。去年はこの11連勝でほとんど逃げたような感じでした。オールスターまでもうどこも追いついてこないだろう。まあこうやって安心しながら見ていましたが、ただもう一度8月にひと山くるだろうと思っていました。なぜなら8月には体力が落ちてきます。暑いしやっぱり疲れます。心配していたように8月5日、6日は巨人に負けました。3連戦で2つ落としたんです。この3つ目、8月7日を負けると、かなり開いていたゲーム差が3.5ぐらいに近づきます。どうなるかなと思ひながら心配していました。この試合は確か9回に菊池が同点ホームランを打ち、新井のヒットでサヨナラ勝ちをしています。この苦しいところをポーンと自分たちの力で振り払って勝っています。

こうやって見ると去年もここまでがポイントだったと思っています。そして何より面白かったのが、去年のカープを支えてくれた2人のベテラン選手です。1人は新井選手でしょう。4月23日に2,000本安打を打って、チームを一生懸命乗せようとしてくれた。もう1人は黒田投手です。今年もういませんが。この投手が200勝というお祝いを7月23日にして勝った。これでチームがまた乗った。そして8月に巨人戦にあのサヨナラ勝ち。これでほぼ去年は優勝すると思ひました。追っかけるチームがなかったからです。

今年も2月1日から練習が始まりました。「衣笠さん、今年は勝てそうですか」とよく聞かれます。一番つらいのは、昨年25年ぶりに勝ったことです。25年ぶりに勝ったというこ

とは、全国で多くの人に喜んでいただきました。そうすると、何があるかという、お祝いの会がかなりあったでしょう。そこへ選手はあちこち出させてもらった。忙しかったと思います。だから選手がどういう風にこのオフを過ごしたかです。1番大事なのは、疲れを取るためにオフに時間をきちっと使えたかどうかということです。その答えが今シーズンに出てくると思います。

僕は1975年に初優勝させていただきました。球団創設以来26年目、初めての優勝でした。あのシーズンオフ、沢山パーティをさせていただきました。当然、顔を出しました。ふっと気がついたのが1月20日頃だったんです。ああもう後10日でキャンプだと思ったんです。この時点で失敗したと思いました。何を考えていたかという、もう少し休みたいという心がどっかにあったんです。まだ疲れているんです。体はたぶん元へ戻っているんですが、頭が整理されていない。なんでかという、本来は野球の好きな僕なんで、10日、1週間休んで頭の整理がいたら野球がしくて仕方がないはずなんです。ところが1月20日頃まで、何となくダラダラダラダラと時間が過ぎて、ああ後10日でキャンプへ行くんだと、何か変に焦っているんです。だからこの1976年のシーズンは確か4位になっているんじゃないかと思います。せっかく75年にあれだけ劇的な優勝をしたのに、76年はBクラスにまた戻ってしまった。ただし、この時にひとつだけよかったのは、失敗を経験として分かったことです。それまでBクラスにずっといて、何で失敗したか分からなかったんです。ところが76年は分かったんです。こういうことをちゃんとしなかったから今年は勝てなかったんだ。今年はいいところへ行けなかったんだという答えをシーズンが終わった時にもらったんです。これは優勝した大きな功罪です。1972年は最下位です。73年も74年も最下位。3年続けて最下位でした。なんで最下位になったのか聞かれても答えが見つからない。我々は一生懸命やったんです。だけど最下位だった。ところが1975年に優勝して、1976年に4位になったら、これがいけなかったんだ。ここでこういう風にできなかつたからいけなかつた。答えを知っているんです。それが優勝の一番大きな功罪です。次にそれがきちっと答えとして形になったのは1979年です。あの年は近鉄と日本シリーズをやって、日本一になりました。

去年カープは日本シリーズで負けました。決して僕は負けたからいいとは言いません。勝ってほしかった。やっぱり勢いを持ってそのままドーンと勝ちたかったんですが、ちょっと考えてみれば経験がなかった。だってみんな優勝の経験がないんですから。だからちょっと疲れていた部分が出て、札幌へ行ってから自分たちの野球が出来なくなった。1戦2戦はポンポンと勝っちゃったんです。黒田は日本シリーズが始まる前に、今年でやめると言いました。1日置いて札幌での3戦目、黒田が先発。みんながなんとしてもこの試合を勝ちたいと思ったらカチカチになっちゃった。これで結局、みんなのリズムが狂っちゃって、去年はああいうカタチで終わってしまいました。

1979年に僕たちが勝ったのと同じように、短い間にもう一度早く優勝してほしい。昨年のように楽に勝ってもいいです。苦しんで勝ってもどっちでもいいです。とにかく優勝してほしい。そうすると本当の勝ち方がチームの中に、一人ひとりの選手の中に出て来る。

要するにそれが財産として残るんです。勝つということはどういうことか。何が必要か。どういう考え方でなきゃいけないか。オフはどう過ごさないといけないか。すべての答えが優勝した時に全部出て来るんです。

優勝するまでの10年は、それを僕は知りませんでした。だけど初優勝させてもらって、その後はどうやったら勝てるかという方法論を知っています。広島カープというチームのみんながそれをたぶん知っていたでしょう。だからここから強いチームになりました。まさか入団する時に5回も優勝を経験させてもらえるとは思わなかった。だけど終わってみたら、5回優勝させてもらいました。素晴らしいチームの中でプレーさせてもらい、素晴らしい監督さんと出会わせてもらいました。

こうやって考えて自分の中でふっと振り返ると、面白いなと思うんです。最初の10年と、後の13年と、23年のプレーの中で、「野球は好きですか」と自分に問えば、「全部好きです」と僕は答えられる。23年間全部野球は好きだった。でも強い時と弱い時があったでしょ。このところには何か差がひとつありますかと言ったら、ひとつだけはっきり言えます。弱い時のチームには大きな目標がなかったんです。目標を持ってなかった。なぜなら喜びを知らないからです。勝った経験がない。だから勝つことはこんなにうれしいことだ。こんなに楽しいことだという喜びを知らなかった。1975年に初めて勝ったんです。ここからの13年間のチームはいつも目標があるんです。優勝です。優勝したら楽しいんです。うれしいんです。そうすると、この目標を諦められません。だから一生懸命に優勝に向かって階段を一步一步登る。そうすると今まで見えなかった野球がひとつずつ、また見えてくるようになる。

こうやって考えてみますと、色んなことを経験することは確かに大事です。だけどひとつのことを一生懸命、自分の納得するまで研究する、追求することは、ものすごく僕は素敵なことじゃないかなと思います。なぜなら自分を磨かなければできませんから。自分がそのままそこへ行けるかという、そうはいきません。自分を少しでも磨いて、前へ行く努力を自分でしなければいけない。そのためには今していることを自分がどれだけ好きになるか。楽しみにするか。時間が空いた時によーし、今日はあれをするぞ。これをやるぞ。だって好きなものなら、いくらでも次を見たくくなります。人に言われて何かやってみるものは、ひとつやったらもう、ああ頑張ったな、よかったで終わっちゃいます。自分の好きなものには終わりがありません。だから僕自身の中で振り返ると、本当にいいものに出会ったなと思うんです。いつ考えても僕にとって野球は楽しいんです。面白いんです。好きなんです。だから野球を見ていると幸せになれます。

そういう意味からしても、こうやって出会ったみなさんの中にも、自分の好きなものをもっと好きになって、もっと研究して、もっと素晴らしいものに育てあげる。そういう素敵な時間をこれからも作っていただければ、今日は知事さんがおっしゃいましたように、広島でこんな素晴らしいことができた、あんな素晴らしいことができたというような、色んなところが見られるんじゃないかなと、そのように思っております。本日はありがとうございました。

●湯崎知事

衣笠さん、どうもありがとうございました。

○衣 笠

野球の話ばかりになりますね、やっぱり僕は野球が好きなんですね。最初に言いましたけれど、他のことは本当に失敗ばかりなんです。

●湯崎知事

いやいや。絵のお話を僕は面白いなと思いました。ずっと今でも取ってあるんですか。

○衣 笠

屋根裏にずっとあります。絶対に人の前には出さない。笑われますから。

●湯崎知事

気分転換には、すごく役に立ったということですね。

○衣 笠

絵の具を塗ることは気分転換になりました。でも本音を言いますと、絵の具を塗りながら、ここで手首がこうなったらどうなるかなとか野球につながってしまうんです。

●湯崎知事

その時も野球を考えるんですね。

○衣 笠

やっぱりダメなんですよ。例えばね面白いドラマや映画を見ているでしょ。その時も手の動かし方を気にしている。あれはこういう風にしたら、ああいう風になるかなとかね。もう何でも野球になる。

●湯崎知事

何をやっていても野球につながっていくんですね。

○衣 笠

そうなんです。ダメですね。

●湯崎知事

でもそれだからこそ優勝だけではなくて、衣笠さんの個人の成績につながっているんで

すね。

○衣 笠

長いこと野球をさせてもらえたというのは、やっぱりそういうところはあると思います。

●湯崎知事

好きだというのはすごく大きなポイントだということですよ。

○衣 笠

そう思いますね。「23年の長いプロ生活のエネルギーは何ですか」と聞かれると「好きなんです」と答えます。たぶん聞いた人は、もっと具体的に言ってよと思われるかも知れませんが、僕からすると、好きしかないんですよ。

●湯崎知事

好きなことならもっとやりたいと確かに思いますよね。

○衣 笠

そうなんです。だから僕は、さっきも言いましたけど、野球選手はシーズンオフになるとすぐ次の日にゴルフに行くんですが、これは理由があるんです。それは解放感なんです。シーズン中はゴルフができませんから、ゴルフ場にいるということはシーズンが終わった。ああ、今年も頑張ったぞという解放感が得られるんです。ゴルフ場でOBを打っても笑ってすむんですよ。グラウンドで三振すると笑ってすまない。お客さんにヤジられる。

●湯崎知事

特に市民球場は怖かったですね。

○衣 笠

怖かったです。今のお客さんは優しいです。

●湯崎知事

今はそういうヤジは本当に聞かないですね。

○衣 笠

僕らの時は怖かったですよ。僕はこの人の家族に何か悪いことをしたんじゃないかと思うぐらいの勢いでヤジる人がいっぱいいらっしゃいました。

●湯崎知事

今年、日本シリーズの第1戦をマツダスタジアムで見ていると、久しぶりにそういうヤジを言われる方がいらっちゃってですね、みなさんがなんか懐かしいなという感じで振り向いて見ていました。

○衣 笠

そうですね。僕らの時は本当に怖かったです。

●湯崎知事

我々ファンは、みんなそれぞれ仕事があって、それでもやっぱりカーブが好きじゃないですか。ですから仕事もやりながらカーブも見に行く。特に最近のマツダスタジアムでの観戦はとっても楽しいです。

○衣 笠

そうですね、特に球場がきれいになりましたね。

●湯崎知事

今、女子が多いでしょ。

○衣 笠

つい先日、ファンの人に「衣笠、ちょっとはチケットを取れるように何とかせいや」と言われました。そう言われても僕じゃどうにもできない。

●湯崎知事

これは松田オーナーも計算を間違えたということですかね。

○衣 笠

そうかといって、入れる数は決まっていますしね。消防法で決まっているんですよ。やっぱり何か災害があった時にちゃんと避難できるように消防法があって、それでキャパシティが決まっている訳です。

●湯崎知事

そういうことですか。我々ファンは忙しくても仕事が終わってスタジアムに駆けつける。行けなかったらテレビで見る。ひとりがさみしかったら飲み屋で見る。好きだったらできるということですね。雨の日でも、みんな赤いカップを着て見えていますよね。これはやっぱりひとつのポイントで、好きになるということは非常に大事なことだと思いますね。

○衣 笠

僕はよく言うんですが、自分の幸せは誰もくれません。自分で作る以外に方法はないですよと。例えばね、僕が4打数ノーヒットで落ち込んでいますよね。朝から一生懸命にバットを振って、グラウンドで練習して、そして試合に出て、期待に反して4打数ノーヒット。三振が2つも3つもあつたら、帰りはガクーンとしている。でも、そこから立ち直るのは僕しかいないですよ。誰も助けようがないでしょ。それと同じように、やっぱり自分の幸せは自分で作るんだというファイトというか、そういう気持ちを絶えず持たなければいけない。自分の人生はオレが作るんだという気持ちですね。自分の好きなもの、今やっていることを好きになれば、そういう迫力が出るんじゃないかと思います。

●湯崎知事

仕事以外にも、みなさんやっぱり好きなものはある。みなさんたくさんあると思うんですね。自分の趣味もあるでしょうし。

○衣 笠

いい気分転換をするっていうのは大事だと思います。

●湯崎知事

みんな家族はとても大事です。やっぱり好きだから大事にする。その気持ちを今、我々は「欲張りライフ」と言っています。昔だったら仕事第一で、仕事以外はやっちゃいけない、という雰囲気もあって、自分の趣味だとか、あるいは家族のことは、好きでもちょっと遠慮していたころがありました。昔は24時間働けますかって言うような時代がありましたが、今は少し変わってきました。今は段々と創造性が求められるような仕事が多くなって来ています。これは一般の事務でもそうですし、あるいは工場の中でも色んなことを考えて、クリエイティブなことが求められています。そういうことを発揮して行くためには、仕事もちろん好きだけど他のことにも目を向けてやっていく。それがまた仕事に返って行くということになります。

○衣 笠

一番大事なことは何かと言いますと、自分自身が疲れてはいけませんよ。疲れると思考回路がプツンと切れちゃう。いいアイデアは出ませんよね。だからそういう時に自分が気分転換に出来るようなものを持っているってことはやっぱり大事なことでしょ。

●湯崎知事

そうですね。それが色々できるような広島県になったらいいなと思うんです。

○衣 笠

広島は非常にコンパクトな街ですから、大きな街から比べると職場と自宅が比較的に近い

いですよね。

●湯崎知事

東京や大阪と比べると随分近いですね。

○衣 笠

今、僕は大半は東京にいますが、東京の電車に乗って通っている人の労力を見ると、そりゃ人が暮らすのは広島だよなって思う。ただ便利に作ってあることは事実です。ただし人はかなり労力を使わざるを得ない。

●湯崎知事

そうですね、便利だけど疲れちゃうってことですね。

○衣 笠

そういうことですね。

●湯崎知事

そういう広島の良いさもうまく生かしながらですね、ゴルフ場も近いですし。それができるような社会にしていきたいです。

○衣 笠

それはもう知事さんの仕事ですから。

●湯崎知事

頑張ります。仕事を一生懸命頑張るためにも暮らしを充実させる。暮らしを楽しむためにも仕事を一生懸命にする。

○衣 笠

そうですね、家族全員が元気で楽しいファミリーを作り上げというのが究極の目的かも知れませんが。旦那さん一人元気じゃ困りますし、奥さん一人が元気でどうにもならない。やっぱりファミリー全員が元気で、何かの時にひとつになって楽しめるものをご夫婦で相談しながら考える。昔と違って今は旦那さん一人が一生懸命に考えても、うちは奥さんの方が強いですよ、っていう方がかなりいらっしゃるから。ご夫婦で考えてほしいですね。

●湯崎知事

うちも同じですね。大体もう我々世代はみんなそういうもんです。

○衣 笠

それが1番平和です。

●湯崎知事

そうですね。仕事も暮らしも、好きなことはひとつとは限らない。好きなことを色々出来るようにしていこう。それが仕事にもきっとプラスになるし、仕事以外の好きなことにもプラスになって行くと思っております。

○衣 笠

どうぞその通りに、みなさんが喜ぶことを知事さんが先頭に立って頑張ってください。

●湯崎知事

ありがとうございました。今日は野球以外のお話、絵の話とか色々いただいたのですが、衣笠さんは今も野球以外で色々楽しんでいらっしゃると思います。みなさんの希望も広島県で実現できるようにしてまいりたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。今日は本当にありがとうございました。

○衣 笠

ありがとうございました。

3. あなたの周りの「よくばりさん」の「欲張り自慢」

欲張り自慢①

○山 田

全校生徒が200人に満たない小学校で働いているので、このような会場で話すのはすごく緊張しているのですが、よろしくお願いします。

私は、「仕事」と「暮らし」と「仕事と暮らし」の3つの視点でお話をさせていただきます。私は昨年4月からこの福山で教員として働き始めました。実は高校を卒業してすぐに就職をしていたんですが、会社で2年間働いた後に大学に入りなおして教員になりました。教員を志したのは、中学校の部活の先生や3年生の時の担任の先生との出会いがきっかけです。どの先生も私たちと一緒に笑い、悲しみ、想いを受け止めてくれる素敵な先生でした。そんな人に私もなりたい。先生っていいなって思いました。高校では部活に取り組んでいたので進路を決める時には、教員になるか、その頑張りを生かせる実業団で陸上をするかで悩んでいました。結果としては今できることをしようと考えて、陸上を続けるために実業団に入りました。しかし、思うようにいかず、1年ぐらいで陸上をやめることになりました。やめてからも1年間は会社に残りました。陸上を選んだ私にとって、陸上を

取ったら何もないのではないかという思いを抱えながら、何ができるかを考えていました。そんな時に、自分の思っていた夢をかなえようと、もう一度大学に入りなおし、今の職業に就きました。

仕事の内容をほんの一部ですが紹介させていただきます。子供たちとの関係づくりとして、たくさん話をするのもそうなのですが、宿題を頑張っている子に「頑張ってるね」など一言書き加えたり、連絡帳に今日頑張ったことを付箋に書いて貼ったりして、頑張りをほめる声かけや感謝を伝えようとしています。私は言葉で表すことがとても苦手なのですが、この一年間を通して、少しずつ子供たちに思いを伝えている状況です。この写真は実際に授業で使った掲示物です。授業が分かった、楽しいと思える子供たちが少しでも増えるように、また、少しでも興味を持ってやりたいと思える授業をするために、教材の研究や関連する道具、本を用意しています。次に子供たちが分かるように何をしているのかを明確にあらわして、すごろくのような形式で楽しく授業ができるように工夫をしました。次の写真は実際に授業を行った時の黒板です。教室の掲示だけでなく、毎日の授業の黒板の書き方についても教材ごとにどのように掲示物を貼るか、どんな書き方がいいのか、チョークの色はどのような風にしたらいいのかなど、色々なことを考えています。この教材では会話が多く出るので、登場人物ごとに色を変えた短冊を作り、上下にして比較しながら授業を進めていきました。ですがどんなに考えても、予想を立てても、子供たちから思うような発言が出なかったり、話が違う方向に行くのを軌道修正したりと、なかなか授業が思うように進まないということも多くありました。これから経験を重ねて、授業力の向上に力を入れていきたいと思っています。

次に暮らしのことについてお話をさせていただきます。私は2年半ほど前から、カープ女子会というのに入っています。この写真は今年の3月にTJ Hiroshimaという雑誌に載せていただいた写真です。前列の左から2番目の住本明日香さんという方をリーダーに活動をしています。カープ女子会に入ったのは2年半ほど前なのですが、私がカープファンになったのは小学校の頃です。父親の影響で野球中継を見ることが多く、旧市民球場に連れて行ってもらったりして、自然にカープが生活の一部となっていました。万年Bクラスのカープを見て、父親と「ダメじゃのう」とか、「またか」と言いながら、ほんの少しの期待を持ちながらテレビを見ていました。先ほどお話した通りに中学校、高校、社会人は、なかなか時間がとれず、テレビ観戦をするぐらいで球場に足を運ぶことはできなかったのですが、関西の大学に行き、広島を離れてみると、カープの野球中継が映らないということの悲しみや広島弁、球場など、今までは当たり前だと思っていたことが、離れてみるとそうではなかったんだと思うようになり、より広島が大好きになりました。また、周りはほぼ阪神カラーなのですが、そこに染まらずにマツダスタジアムでの一体感、チームの魅力などを再認識し、よりカープがいいなと思うことが増えました。

働き始めるとなかなか女子会のイベントには参加できなかったんですが、今までの活動を少しだけ紹介させていただきます。左上の写真は、カープの福袋の商品のデザインを選ばせてもらった時の写真です。実際に自分たちが選んだデザインが商品になって売り出され

るのを見るという貴重な体験が出来ました。右側はトマトすくいなんですけど、トマトジュースの PR イベントのお手伝いをしたときの写真です。左下は北別府さんのトークショー、ディナーショーの受付のお手伝いをしたときの写真です。こういった活動を通して、カープ女子会の人たちとの交友が増え、イベントで多くの方とふれあい、話をして元気をもらっています。学生の際は友だちと甲子園を拠点として、マツダスタジアムや東京ドーム、沖縄キャンプ、更には二軍の試合を見に鳴尾浜や由宇にも行きました。年間 30 以上の試合を見ていた分、今年はなかなかチケットが取りにくく、観戦回数も減りましたし、遠征にもちょっと行くことができなかつたんですが、土日のどちらかで、なんとか手に入れたチケットで観戦に行き、女子会で仲良くなった友だちとご飯に行ってリフレッシュをしています。

カープ以外にも大好きな陸上や同期から誘われて始めたボルダリングなど、体を動かして楽しんでます。この写真は昨年 11 月 3 日に行われた広島リレーマラソンに出た時の写真です。高校の駅伝部、男子女子で出場しました。この大会に向けて特別練習をしたわけではなかつたんですが、楽しくタスキをつなごうという目的で走り切ることができました。それぞれもう就職をして、お互い仕事の大変さ、良さを聞くことができたり、久々に集まって、思い出話をしたりと、リフレッシュをしています。

最後に仕事と暮らしについてお話をさせていただきます。社会人になったばかりの頃はどうしても土日に仕事をしないと終わりませんでした。少しでも気分転換と思っていても頭から仕事のことが離れず、もやもやした気持ちで週末を過ごすことが増えました。社会人になってそういうストレスを感じている時期がありました。そこで必ずという訳ではないのですが、土日の休みのどちらかや午後の時間を楽しむと決めて、わざとカープ観戦などの予定を入れることで、集中して仕事に取り組むことができるようになりました。また子供たちに休みの日にこんなことをしたよとか、こんなこと思ったよという、話のネタにもなりました。子供たちにカープの話をしたり、私の持ち物がよくカープグッズだったので、「先生カープ好きなんじゃ」とか、「昨日の試合勝ったなあ」とか、カープのおかげでちょっとした会話をすることが増えました。この写真は同期と一緒に観戦に行った写真なんですけど、試合が終わって車での帰り道で、お互いの仕事の状況を話したりして、ちょっとしたヒントを得ることができました。生活を充実させることで人との会話が増え、そこから子供たちに話すネタができたりしています。どんなに忙しくても、やっぱり時間をとっていくことでリフレッシュすることにもつながりましたし、また頑張ろうという思いも生まれるようになりました。

今、私の目標は、大学の友だち 3 人で 47 都道府県を制覇することです。3 人とも教員をしているので、子供たちとの話の種になりますし、忙しいと言いながらなかなか集まれないので、集まる口実にもなります。もうひとつの目標は、今教えている 2 年生の子供たちに、卒業するまでは走りでは抜かされないようにすることです。

教員生活ももうすぐ 1 年経ちます。毎日授業をどうしていこうか、いい授業をしていきたいなという思いがあったんですが、なかなか上手いかず、もう嫌だということも多々

ありました。子供との関係も、伝え方や表現の仕方が上手くいかず、悩むこともありましたが、ですが同じ職場の先生に相談をしたり、友だちに話をしたり、リフレッシュしたりすることで、また、頑張ろう、頑張っていこうと思ひ直すことができました。子供たちの「わかった」という声や「なるほど」と思った顔を見ることが頑張る原動力になり、やっていたよかったなと思います。日々変化し、成長していく子供たちの姿を見ることができた時には、すごくうれしく、やりがいを感じています。これからも子供たちと本気でぶつかって、子供たちのために頑張っていける教師になりたいと思っています。

つたない発表でありましたが、ご清聴ありがとうございました。

欲張り自慢②

○小 谷

ご紹介に預かりました、府中市から参りました小谷と申します。まず、タイトルなんですけれど、私の場合は、「ワーク」仕事ですね、と「ライフ」プライベート、それがイコールであるというお話をさせていただきます。その理由としては、最初に「欲張りライフ」という話を聞きまして、欲張りって言われると、紹介された時にちょっと何でしょう、欲張っていいのか、あまり公表されると、ちょっとうらやましがられたり、ちょっと貪欲だ、強欲だと言われなかなと思ひ少し警戒しました。しかし、ホームページの過去の記事を見たり、先ほどの衣笠さんのお話を聞いて、そっか、私の場合は仕事と生活がかなり混在していて、それが良いことなのだとちょっと肯定された気持ちになりました。そこから辺の話を今日はさせていただきます。

まず私の仕事と暮らしについて話す前に、簡単に自己紹介をさせていただきます。クイズ形式にしました。こういう顔をしているんですが、4択にしています。1番目、コーヒー店の店主。2番目、まちづくりNPOの理事。3番目、ホームページ制作のフリーランス。4番目、まちづくりのイベントの司会・進行。さて、答えはどれでしょうか、という間もなく正解を話します。すべて正解です。色々やり過ぎています。欲張りというのをそしゃくしてちゃんと考えた時に、これだと思ひました。ちょっとやり過ぎ感を出しているんです。これはほんと一部なんですけれども、色々やっています。そのことについて話をさせていただきます。

まず、コーヒー店の店主についてです。私はコーヒーがとても好きで、好き過ぎてコーヒーの店を始めました。特に経験があった訳ではなく、お店で働いたこともありません。たまたま府中市内に素晴らしい物件がありました。文政9年のこの建物です。上の方は分かると思うんですけど、格子がある、江戸時代の建物です。それをかなりお安く、善意で貸していただいています。そういうチャンスを与えられて、1年8ヶ月くらい、2013年から2015年の8月まで自分で改装し、後は仲間たちと改装しました。今はこういう外観になっています。ちなみに名前は「コーヒーファクトリーハイジ」です。元々の建物はいかにも昭和の商店街にあるお店のたたずまいが残っているんですが、こういう状態でした。かなりゴミが残っていました。昭和の色んな思い出がたくさんありました。例えばミニ四駆

のコースとかです。このお店はパン屋の建物なのでパンを焼く機械や製造の色んな設備がありました。それを今はこういう形にしています。ちなみにこの右の奥の方にあるんですが、看板はLEDにしています。これは地元のオンリーワン企業でLEDの看板を作っている会社がありまして、その製品を使わせていただいています。これも善意で同級生たちの寄付でつけています。左側のショーウィンドウです。コーヒーと書いていますが、これはお客さんで来られた小学5年生の子供が落書きとは言えないレベルの作品を残してくれました。色んな人たちの力によってこのお店ができています。そういうお店をしています。まあ話せば長いんですけども、さらっと次の話をさせていただきます。

2番目は、まちづくりのNPOの役員、理事をしています。「府中ノアンテナ」というNPOです。見ていただくと分かるように、府中市のふるさと大使をされているアンガールズさんです。その名刺を制作しました。府中市の情報発信に関わる仕事もNPOを通して参加しています。一緒に撮影をしたり、撮影現場に行ったり、こういった衣装を着てもらったりとかも考えました。

それから個人事業主としてホームページの制作やグラフィックデザイン関係の仕事もしています。写真も撮っています。地場産業に府中家具と府中味噌、あともう1つ府中焼きというのがあります。府中市で有名な3大府中だと私は思っていて、よく紹介するものです。府中家具と府中味噌についてはホームページを制作しております。それ以外も制作をしています。

それから、まちづくりのイベントの司会・進行をしています。福山市の関係でこちらもNPOの仕事だったのですが、まちづくり大学というイベントの中の1つで、NPO団体の紹介、また市民の方にNPOに参加していただけるようなきっかけづくりを企画し、司会・進行もさせていただきました。

これが私の大体の公な仕事です。今回のテーマは「仕事も、暮らしも、どちらも充実させる欲張りなライフスタイルを」なので、暮らしのことも少ししゃべらせていただこうと思います。

これは友だちのフェイスブックにあげている写真です。私はよく写真を撮るんですが、撮られることはあまりなくて、これがプライベートの数少ない写真です。これは自分のお店です。座っているのは長男です。実は写真をとって宣伝しています。宣伝に長男を利用させてもらっています。自分のお店の紹介をフェイスブックなど、色んなところに出しています。仕事の中にも子供が関わる場所を作っています。子供と一緒にコーヒーのことに話をして話します。「こんなコーヒーだったらいいよね」というのを夜、寝る前に話したりしています。自分の考えを整理するのもいいので、一緒に子供と考えています。この写真はコーヒーゼリーです。店でお菓子もやれば、試作品は必ず食べられるので、すごく楽しめています。

そういった仕事のようなプライベートのような自分の好きなもの、さっき衣笠さんもおっしゃっていましたが、好きなことを追求することに関して考えた時に、ワークライフバランスっていうのがあります。この言葉はすごくよく分かるんですが、こういう図じゃ

ないかと思えます。このワークとライフはバランスですね。天秤にかけるような感じですね。トレードオフともいいますが、どちらかを優先すると、どちらか立たないというのがこの考えにあると思えます。これが悪いことではないんですが、私は以前はどちらかしか取れないと考えていました。私は東京で会社員をしていたのですが、その頃、仕事に打ち込めてなくてちょっと悩んでいました。現在はフリーランスなので自分で考えて、より多くの仕事をするように心がけるようになり、今はこのように考えてます。ワークとライフは対等である。天秤にはかけない。しまいにはもうイコール、同じなのだ。すると見たら分かりますかね、ワークとライフ、ライフワークになる。さっき衣笠さんがおっしゃっていたように、野球を引退されても野球のそばに居続けて、それがほんとに好きで、ずっと追求し続けられるっていうのが、これじゃないのかなと思いました。先ほどの衣笠さんの話を聞きながら、思いは同じなんだと感動していました。

最後はワークライフ、ワークライフシティ府中、今回府中から来たんで一応府中のことをアピールして、この写真をつけています。広島県がこのように仕事と生活を天秤にかけず、どちらも大切にできるような県づくりを目指している。ちなみに私の会社員時代の上司の方に名言があって、それはずっと忘れられません。当時は全然分からなかったんですが、今はすごく分かります。その方は、なんでも鑑定団に出ているぐらいの骨董品の趣味をお持ちでした。その方が言われたのが「仕事は趣味よ」です。その方は会社で役員までされた方ですが、「会社の仕事は趣味よ」と言われていました。その方の趣味の骨董がむしろ本業だと。何故かという、その後の補足の説明でなるほどと思ったのですが、仕事が趣味じゃないと上達しない。好きになれないし上達しないという話をされていました。趣味でできないような仕事なら辞めるとまで言われました。結局、私は仕事を辞めたのですが、今思うと、勤めていても、勤めていなくても、自分の仕事の楽しいところを見つけて、そこに集中して、そこからちゃんと自分の仕事を構成することができればよかったんじゃないかと。その経験から、仕事も人生の中にある訳ですし、ましてはライフワークにできれば、本当にみんな生き生きと生活できる。自分の人生は一度しかない。第2の人生といいますが、実は第1しかないんじゃないかなと思っています。

ちょっと話が長くなりましたが、最後にこれ見えますかね。衣笠さんのサインです。職権を乱用して、ちゃんといただきした。やりました。それでここに書いてある「忍耐」っていうのがまさしく衣笠さんならではだと思えます。誰もが知っている連続試合出場の日本記録保持者で、まさに忍耐だなと思いました。仕事を続けていく、人生を謳歌する、仕事も人生も充実させていくのは、実は忍耐がポイントなんじゃないかと、お話を聞いていて思いました。続けていると楽しくないことも絶対あります。私はコーヒー店をやっていますが、深夜まで仕事をやることもありますし、家族に迷惑をかけることもあります。そこでこれでいいのかなと思うことも当然あります。よく周りからは、「楽しんでいましょう」と言われるんですけど、実はここだけの話、楽しんでいだけでは済まないことも当然あります。ということで私の最後に、気づきは「忍耐」ですね。今日は衣笠さんのサインを持って帰ります。ありがとうございました。

4. 欲張りトーク

●湯崎知事

それでは改めて広島県が目指す「欲張りなライフスタイル」について少し説明をさせていただきます。今日のお話の中にも少し出てきたんですけれども、暮らしを犠牲にするような働き方をしたり、あるいは暮らしが大変なので仕事を諦めるっていうようなことが多々あるんじゃないかと思います。例えば通勤時間が長くて、あるいは残業が多くて、家に帰ったらいつもぐったりしてしまう。趣味の習い事にも行けないとか、子供も成長したので仕事に復帰したいのだけれど、ご主人がすごく忙しいので諦めようかなというような、そんなことですね。例えば東京みたいな大都会ですと通勤は本当に大変で、保育所にも入れなかったりする。そういう状況の中では、なかなか子育ても難しいということで、出生率も減ったりする訳です。でも広島県であれば、仕事も暮らしも両方を欲張れるんじゃないか。これは「欲張る」ということがポイントで、仕事も暮らしも頑張れるということではないんですね。仕事も暮らしも両方を欲張れるんじゃないかと。無理だと思わないで、まあ欲張ってみませんかというのが、みなさんにお伝えしたいメッセージであります。

暮らしが充実すると視野が広がって、斬新な発想や、あるいは組合せが生まれて、効率よく仕事ができる。またその結果、仕事の生産性がアップして、仕事自体が上手く行く。さらにそれがまた暮らしの充実につながる。そしてさらに仕事の生産性の向上につながる。そんな欲張れる好循環が生まれていくのではないのかと思っています。広島県はそのような、どちらも諦めない、『欲張りなライフスタイル』を応援していきたいと思っています。広島には実はそういった「欲張りライフ」を実現できる強みがあるんじゃないかと思っています。

1つは衣笠さんもコンパクトとおっしゃいましたが、町と自然がすごく近いところにあるということです。福山市も50万都市で非常に大きな都市ですし、広島市も100万都市で大きな都市ですが、少し行くと、とても豊かな自然があります。例えば農産物であるとか、あるいは地域特産品を作っても、都市が近いので、それを売るのも簡単ですし、逆にお客さんが買いに来ることも簡単にできる。逆に都市に住んでいて自然が近いので、自然を楽しむということも簡単にできます。また、広島県は昔からフロンティア精神が強い県民性、あるいは古くからある物づくりの技術、こういったイノベーションのような土壌があるかと思っています。優れたデザインであるとか、付加価値の高い製品が次々と生み出されてきたところです。

そしてもう1つは、ファミリーフレンドリーと我々は言っていますけれども、これは例えば広島県の男性の平均育児時間は全国で4位なんですね。また、仕事から帰ってくる時間、家に帰る時間、これは東京よりも1時間早い。つまり広島では仕事が終わって、家に帰って、家族みんなでご飯を食べることが当たり前ができる。これは広島に住んでいたら

当たり前かもしれませんが、東京にいと早く帰っても、家にたどり着いた時にはもう8時ぐらいで、小さな子はもう寝ているとか、ご飯もとっくに終わっているということになる訳です。仕事や暮らしに対する希望は一人ひとり異なります。一生の中でも変わっていくかもしれません。今は仕事をしっかりやりたい、あるいは逆に子供との時間をたっぷり取りたい。そんな時期があると思います。それはまさに人それぞれというところですね。もちろん仕事も趣味も全力投球したいというような欲張りさんもたくさんいらっしゃると思います。そういうお一人おひとりの仕事や暮らしに対する希望を、広島でならかなえられる、広島でかなえようと、感じるができる、そういった社会にしていくことが大事かと思っております。

広島県では育児や教育環境の充実、あるいは働き方改革といったような様々な取組を進めているところです。この背景にありますのは人口の変化です。広島の人口はこのままいくと大きく減少していきます。現在、人口は284万人です。しかしこのままいくと2060年には190万人、つまり90万人も人口が減少します。この90万人というのは、広島市に匹敵するような大きさです。2060年って、ちょっと遠すぎて想像できないと思われるかもしれませんが、もうちょっと近いところ2040年ぐらいでも実はすでにこのピークの288万人から比べますと50万人も人口が減ります。これは福山市まるまる1つ分ぐらいですね。そういう大きな変化が実は比較的急速にこれから進んでいくということです。

一方で今より多くの子供が欲しいとか、広島に住み続けたいという方はたくさんいらっしゃいます。そういう方々の希望を実現できるような環境づくりを通じて、減少する人口をなんとか押し留めるといふことが必要ですし、そのために色々な取組を進めています。人口減少が進みますと、経済が縮小して、非常に大きな影響を県民生活にも与えていきます。例えば業績は好調なんだけれども後継者がいなくなって廃業をしてしまう、あるいは子供が減って、本屋さんや駄菓子屋さんが大変苦しくなる。このようなことはみなさんもお覧になっているんじゃないかと思ひます。人口減少が進む中であつても、効率的に働いて、暮らしの中の消費生活を拡大するといふことができれば地域に活気を生むことも可能です。そういうところから生まれてきたのが、仕事も暮らしも充実させる『欲張りなライフスタイル』といふことです。

これまでに県内各地で「欲張りライフ」を実践する方からお話を伺ってきました。例えば酪農をやっている方のお話では、「牛は毎日お乳を出しますから休めないイメージですが、酪農を効率化して、できた時間で旅行を楽しんでいます」。あるいは「着物が好きなので、休日は着物イベントを開催して、和服のよさを仕事とは別に伝えています」など。すでに欲張りなライフスタイルを実践されている方もたくさんいらっしゃいました。また、これから欲張りしたいとか、さらに欲張っていききたいといふことで、色々な希望を皆さん持っていていらっしゃいました。

会場のみなさんも、お一人おひとりがそれぞれ仕事とか、あるいは暮らしにおける希望があるんじゃないかと思ひます。それぞれの『欲張りなライフスタイル』を見つけてほしいと思ひます。今はこれをしないといけなから、こつちは諦めようと、自分で枠を作ら

ないで、あれもこれもやっていいんだという風に考えていただければと思います。それを実践するために、広島県も応援をしていきたいと思っています。県民みんなで推進するこの広島発の『欲張りなライフスタイル』を是非、全国に広げていければと思います。ありがとうございました。

●湯崎知事

山田さんと小谷さん、どうもありがとうございました。山田さんは学校の先生でカープ女子、陸上もやってらっしゃるということですね。それから小谷さんは、色んな仕事イコール、ライフであるという中でコーヒー店ですか。カフェ？

○小 谷

コーヒー屋さん、焙煎場。色んな言い方があります。

●湯崎知事

でも、その辺もこだわりがありますよね。

○小 谷

そうですね。あります。

●湯崎知事

他にも WEB 制作とか、色んなことをやっていらっしゃるということですね。衣笠さんは野球選手、今は野球解説者、私は知事をやっていますけれども、今こうやってお話をお伺いしただけでも、やっぱり色んなライフスタイルがあるような気がします。

○衣 笠

そうですね、非常に上手く気分転換されていると思います。最終的には、ひとつのことを追求する方が深くて、色んなものが得られるのですが、気分転換を上手くしないと、自分がそこから立ち直る時に色々と苦しい思いをしなければいけない。そういう意味では、お二人とも非常にいい気分転換の方法をお持ちだと思います。今日、お話をお聞きして、非常にいい気分転換をしている。友だちのジャンルが違くと色んなアイデアが出てきますよね。それがすべて自分の中に集められる。そういう意味では理想的じゃないでしょうか。

●湯崎知事

私がちょっと思ったのは、例えば山田さんは学校の先生ですから、仕事ははっきりとした職場があって、仕事する時には学校で仕事をします。衣笠さんも私も、どちらかというとなんかですね。小谷さんは、仕事場はコーヒー屋さんがあるのですが、そこだけではないし、その仕事場が半分暮らしの場に近いような印象でした。

○小 谷

そうですね、いわゆる ON・OFF っていう言葉がありますけれども、私はあまりないですよ。

●湯崎知事

ON と OFF が一緒というか、常に ON なのか、常に OFF なのか、そういう感じですね。

○小 谷

そうですね。かなりファジーな感じですね。ただ最近はやっと子育てがあるので、子供と接する時間を作るためにも、コーヒー屋は他のスタッフさんに任せて、ちゃんと OFF を作っています。

●湯崎知事

意識をして、少し分けるようにしているということですか。

○小 谷

そうですね。

●湯崎知事

ですから仕事といっても色んなあり方があるなということと、それからもうひとつ面白いなと思ったのは、小谷さんがライフ＝ワークで、仕事の場と生活の場がわりと混然化しているんですけど、衣笠さんもワーク＝ライフですが、仕事の場と暮らしの場は別々というか、球場がやっぱり仕事の場じゃないですか。

○衣 笠

私は球場に入るとそういう意識はありますけれども、ただ 24 時間野球ばかりですからね。

●湯崎知事

そういう意味では本当にライフ＝ワークなんですね。

○衣 笠

だから今になって振り返れば、こんな幸せな人生はないんじゃないかと思いますね。好きなことを 24 時間ずっと考えてきた訳です。そういう意味では振り返ってみると幸せな人間だなとつくづく思います。

ただ 1 点だけ、先ほど小谷さんが子供との時間のことをとおっしゃいましたが、僕はこ

れだけは失敗しました。この時間は持てませんでした。僕は1年のうち半分は家にいません。広島の家にも、子供が幼稚園や小学校の頃は、僕が起きてきた時にはもう子供は家を出ていますよね。で、僕が野球から帰ってきたら寝る時間です。だから子育てだけは悔しいけどしていません。子供の一番かわいい時を知りません。僕が引退した時に下の子が小学校の5年生でした。ただそこからは、かなり子供は見ています。子供は何を考えているんだろう、何をしがっているんだろう。友だちとどういうことで盛り上がっているんだろう、漫画はどのようなものが好きなんだろう。これはかなり頑張っ、子供っていうものを理解しようとしていたんですが、ちょっと遅いですね。

●湯崎知事

職業柄、難しい場合もあると思います。でも衣笠さんがそうやって意識をされたのは素晴らしいことではないでしょうか。

○衣 笠

やっぱり人間を見ているのが一番面白いですよ。色んな変化を見せてくれるから。

●湯崎知事

山田さんの場合には、ONとOFFがかなりはっきり別れている感じですが、カープが好きなのと、学校の子供たちが好きなのと、どっちが好きだと聞かれたらどうですか。

○山 田

好きで先生になったんですけど、最初は自分の時間もとれないし、本当に仕事が嫌というか、思ったよりもしんどかったです。大好きなカープの試合を見に行っても、翌日の仕事の事を考えて、後もう1回見たら帰らないといけないとか残念に思っていました。だけど1年目のそういう状況乗り越えると、徐々に子供たちの良さや、ちょっとした変化が見られた時のうれしさを実感するようになりました。授業中に、あっ今、分かったなっていう顔を見たりすると、やっぱりやってよかったなって思うようになったので、今は子供たちが好きです。

●湯崎知事

そうですね。困らせてすみませんでした。だから、選べないことってあるんじゃないかと思うんです。小谷さんも、コーヒー屋とWEB制作のどっちか選べと言われても困りますよね。

○小 谷

そうですね。私の場合はどっちかのためにどっちかをやっている。お金を稼いでそれをコーヒー屋につぎ込んでいるっていうのも若干あります。でもどちらもすることによって、

例えばコーヒーのお店をしていると同業の人が来て色んな情報交換ができる。WEB制作の新しいお客さんが来てくれるかも知れない。自分から営業しなくてもいいんじゃないかなって、最近思うことがあります。普通は制作だと提案をすることがありますけれども、私はコーヒーのお店が茶室だと思っているんですよ。自分のコーヒーを出して、それが美味しかったら、いきなり打ち解けられる。そこで色んな話をするうちに、この人は何をしている人なんだろう、この人はもしかしたら一緒に仕事ができるかもっていうのを感じることもある。だから相乗効果があるんじゃないかと思っています。

●湯崎知事

なるほどね。ONとOFFで気分転換という意味もあるけれど、実はOFFがONのために直接役に立っている。衣笠さんの絵を描きながら手首の返しが野球の役に立つんじゃないかっていう話にも通じる。しかも気分転換にもなっている。ただ、分けるんじゃないくて、そういう意味も含めて色んなことにトライをしてみるというのはいいことじゃないですかね。

○衣 笠

自分が面白いかな、楽しいかなと思ったものに関しては、もう迷いなくトライして、振り返った時に、ああ、あの時こんなことがあったねって、自分の中に思い出を作るっていうのは、これが一番楽しいんじゃないですか。

●湯崎知事

衣笠さんは野球選手ですから、選手時代は野球に集中していた。それが幸せだった訳ですよ。残念ながら、小さい頃のお子さんは十分見られなかったかもしれませんが、きっとその後は、埋め合わせじゃないですけど、子供さんを見ていらっしゃると思います。

それぞれのステージや好きなことが色々あって、ただ好きなことが1個であれば、その1個でいいですけども、色々あったら、それは諦めないでやってみる。それが実は相乗効果を生むことがある。それはリフレッシュにしても、先ほどの営業につながるっていうようなことにしても、色々あるんじゃないかと思います。好きなことは色々やっつけていけばいいんじゃないかと思います。広島県としてはそういったことを実現できるように、例えば子供がいたら保育がちゃんと利用できて仕事もできるし、子育てもちゃんとできるとか、そんなことも含めて色々応援していきたいと思っています。

○衣 笠

よろしく願いいたします。

●湯崎知事

はい、ありがとうございます。それではそろそろ時間となったようでございます。本当

に今日は、みなさま、貴重なお話をお伺いして本当にありがとうございました。

○山田・小谷・衣笠

ありがとうございました。

●湯崎知事

ありがとうございました。